

デーリー東北
2018年(平成30年)7月15日(日曜日)(16)

学生からの質問に答えるダイアナ・アマド教授(左)と岩見一郎教授



八戸

米国の地方の
実情を紹介

八工大で国際
交流セミナー

八戸工業大基礎教育研究センター(川本清センター長)はこのほど、同大で国際交流セミナー「地方における異文化理解・国際交流」を開いた。同大の岩見一郎教授と、米国ミズーリ工科大のダイアナ・アマド教授を講師に迎え、約40人の参加者が

海外における地方の生活の実態に理解を深めた。

セミナーは地方でも国際化が進んでいることを受け実施。日本と米国における地方の実情を理解し合うきっかけをつくらうと、岩見教授らが企画した。

岩見教授は、オープニングスピーチとして、二つの言語が交じり合っただけでできたハワイの「ピジン英語」などを紹介しながら、外国語学習について提言。「海外の新しい技術を取り入れた

いとき、英語は絶対に必要となる。エンジニアやデザイナーを志す人にとって、強力なツールになっていく」と主張した。

続いてアマド教授がミズーリ工科大の歴史などを紹介。地方都市に所在するという大学という視点を交え、「アメリカル都会」というイメージがあると思うが、日本と同じで、地域によって特有の文化がある」と説明。セッションパスライフについて語った後、学生からの質問に答えた。(佐藤雄)